



大津中央
営農課 桐原

水稲用初期除草剤散布後は、7日間の止水管理を実行しましょう

田植え同時や田植え後に散布する水稲用初期除草剤の効果を十分に発揮させるために、代かきを丁寧におこない均平のとれた田んぼとし、処理時期を厳守するとともに次のような水管理が大切です。

- 1 水の出入りを止めて、湛水状態(水深は、粒剤とフロアブル剤では3~5cm、ジャンボ剤では5~6cm)で散布。
- 2 散布後1週間程度、湛水状態を保ち、落水やかけ流しをしない。

※水稲用初期除草剤の種類により適用雑草や使用方法などが異なりますので、詳しくは最寄りの農産係または資材店舗におたずねください。

田植え後の水管理

根優先の水管理を行いましょう!

水稲農薬の効果を安定して発揮させるためには、「水管理」が重要なポイント!

1 活着期

田植えから5日~7日間は、植え痛みを軽減させるため、やや深水(3~5cm)で管理してください。ただし、ジャンボタニシの被害を受ける場合は、浅水管理とします。注 ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)対策剤…スクミノン(10a/1~4kg)

2 分けつ期

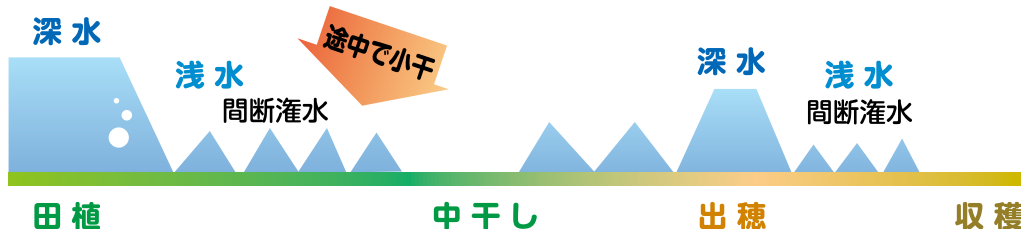
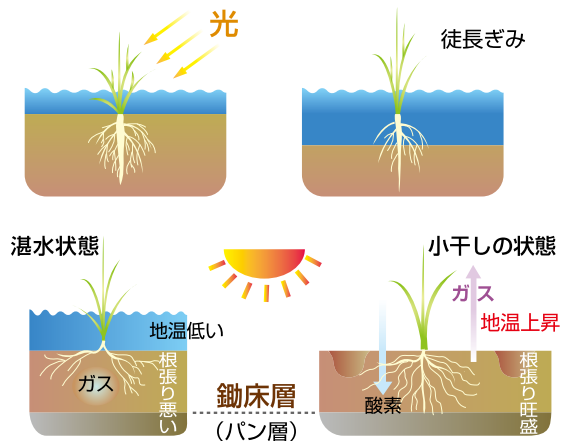
活着後は、株元に十分に光をあて、分けつ促進のため浅水管理(水深2~3cm)としてください。
※ポット苗は、特に早めの浅水管理に移す。

3 小干しの実施

7月中旬頃は、根が深く(すき床層)近くまで伸びる時期なので、その手助けとして1~2日程度「小干し」を行い根に活力を与えます。また、地力チツソの引出しを行います。

(田植後の長雨や高温が続く場合は、新根の発生が抑制されます。また、梅雨明けの急激な高温時は、有機物等によるガスが発生する為、特に「小干し」が必要です。)

「小干し」後は、浅水管理で、茎数が目標の8割程度確保できたら、間断灌水に切り替えてください。



ジャンボタニシ対策の注意!

- ジャンボタニシの防除は、登録があるものを使用してください。注 上記記載
- 「椿油かす」は特殊肥料ですが、ジャンボタニシ等の病虫害防除には使用してはいけません。(病虫害防除を目的とした使用は農薬取締法の違反となります)
- 「椿油かす」の含有成分(サポニン)は魚毒性が強いため、水田での湛水使用は避け、水路や河川へ流出しないようにしてください。

